

見本

総数3頁の2頁

証明書番号 ####

校正証明書

依頼者名	〇〇〇〇〇
依頼者の住所	△△△△△
計量器の名称	ガラス製温度計
型式又は性能	目盛範囲 -2 °C ~ 52 °C 目 量 0.1 °C
器物番号	####
製造者名	日本計器株式会社
校正項目	温度
校正方法	ガラス製温度計校正マニュアル 「文書番号 QM-504-10 (3)」による
校正室の環境条件	温度 17 °C ~ 28 °C 湿度 20 % ~ 80 %
校正年月日	□□□□年□□月□□日

校正結果は別紙のとおりであることを証明します。

□□□□年□□月□□日

認定基準 ISO/IEC 17025 : 2017 (JIS Q 17025 : 2018)
国際MRA対応JCSS認定事業者 (温度・質量)
当校正室 認定番号 : 0266

日本計器株式会社

〒530-0043 大阪市北区天満三丁目11番12号

JCSS校正室 室長 近藤裕子

見本

証明書番号 ####

校正結果

器物番号	表す温度 (°C)	補正值 (°C)
####	0.00	+0.08
	10.00	+0.14
	20.00	+0.05
	30.00	+0.11
	40.00	+0.09
	50.00	+0.04

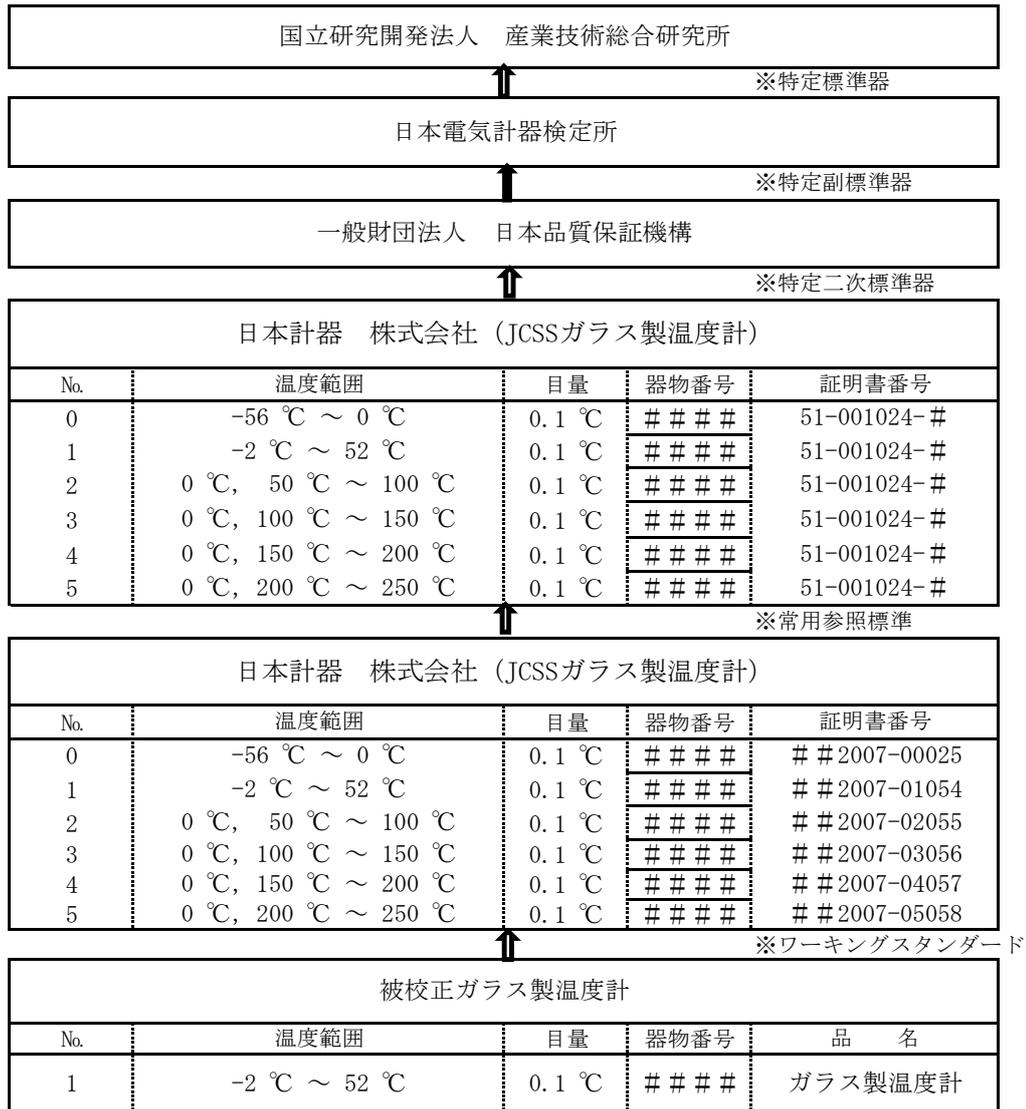
1. 表す温度とは、ガラス製温度計の校正の温度目盛をいう。
2. 表す温度の指示すべき温度値は、表す温度に補正值を加えて求める。

<校正条件>

1. 校正を実施した時の校正室の環境条件
温度 ## °C ~ ## °C
湿度 ## % ~ ## %
2. ガラス製温度計受け入れのためのアニール試験を行った。
最高温度で30分のアニールを行った後に校正を行った。
3. 校正に使用した温槽
0 °Cの温度目盛の校正には、氷点槽を使用した。
10 °C ~ 50 °Cの温度目盛の校正には、水温槽を使用した。
4. 校正に使用したワーキングスタンダードの器物番号：####

以上

温度トレーサビリティ体系図



当社の標準器は、上記体系図の通り国家標準にトレーサブルであることを証明します。

□□□□年□□月□□日

日本計器株式会社

〒530-0043 大阪市北区天満三丁目11番12号

TEL : 06-6352-6141 FAX : 06-6357-4025

E-mail : info@nihonkeiki.co.jp

http : //www.nihonkeiki.co.jp